

令和6年度 第1回太良町教育環境整備検討委員会会議録（要点筆記）

日 時 令和6年8月30日（金）14：00～16：10

場 所 太良町中央公民館 2階視聴覚室

出席者 委員 21名

坂口久信委員、大鋸美里委員、高松委員、赤木委員、鶴田委員、大岡委員、合浦委員、大鋸寛委員、巨瀬委員、松本委員、西田委員、永淵委員、田崎委員、山下委員、坂口和宏委員、佐藤委員、橋本委員、平井委員、古川委員、武富委員、岡委員

事務局 7名

岡教育長、與猶学校教育課長、西田社会教育課長、福田学校教育係長、松本総務係長、織田体育係長、石丸係員

欠席者 なし

1. 開会 與猶課長

2. 教育長挨拶

- ・6月19日に総合教育会議を開催し、町として小中教育の現状と課題を協議した。本検討委員会を設置し、令和7年度までに具体的な方策を検討することで合意した。
- ・委員の知識や経験を大結集し、どんな小さなことでも結構なので、色々と意見を出していただき、有意義な会議になればと思っている。

3. 委嘱状交付 教育長から坂口久信委員へ交付。他の委員へは事前に机上に配布。

4. 委員長及び副委員長の選任 委員長に高松謙二委員、副委員長に鶴田義廣委員を選任

5. 協議事項

(1) 少子化をめぐる太良町立小中学校教育の状況について

(質問等)

巨瀬委員 : 部活動に入っていない3年生の生徒の割合が多良中33%・大浦中20%ということだが、部活動に入部しない理由は何か。

岡委員 : 例えば、小学校で野球をしていた女子が、中学校ではソフトボール部に入りたかったが部がなかった。小学校ではサッカーをしていたがクラブチームに入ったなどの事例がある。

武富委員 : その具体的な状況については把握できていない。

(2) 人口減少社会における学校教育の在り方について

(質問等)

巨瀬委員 : 14頁小規模化による課題とあるが小規模校とは何を指すのか。

與猶課長 : 12 学級未満になる。

(3) 学校教育の今後の検討課題と対応について

(質問等)

田崎委員 : 統合した学校の場所はどこになるのか。

與猶課長 : 場所はまだ決まっていない。

岡教育長 : この教育環境整備検討委員会は学校の統廃合が前提ではない。将来、太良町の教育がどうなっていった方が一番いいのか、町民や保護者、子供たちの意見を幅広く聞いて方向性を見出していきたい。

大鋸寛委員 : この会の名前が『太良町環境整備検討委員会』となっているので、この場で出した答えがそのまま町の政策となるのか。

與猶課長 : 本会議では方向性を定めて教育委員会に報告することになる。それを踏まえて教育委員会で決めていく。

鶴田委員 : 方向性が決まったら、また組織を立ち上げるのか。審議会をするのか。

岡教育長 : この検討委員会が審議会にかわるものと考えている。検討委員会の結論は報告書としてまとめ、教育委員会に提出されることとなる。他市町の審議会では統廃合を前提としたものが多い。本会は統廃合を前提としていないので、その前の段階ともいえる。とはいうものの、協議内容の状況によっては、学校の配置場所や小中一貫校なども視野にいれて議論していただくことになる。

坂口久信委員 : 模索しながら、若い人たちの意見も重要であり意見をまとめる必要がある。

鶴田委員 : 団塊の世代からいえば、子供の数が急激に減っている。小学校は体力的に考えて、今のまま多良小と大浦小それぞれで存続の方向で、また、中学校は合併してもいいのではないかと考える。

岡委員 : ある程度の方向性を示すためには、色々な所に見学に行く必要があると思う。

與猶課長 : 今年度中は、予算関係上難しいが、来年度予算を計上し視察を行いたいと考える。

平井委員 : 多良小と大浦小が合併しても 330 名なので大規模校になるわけではない。

坂口久信委員 : 小さい学校でも光れば良いと思っているが、学力レベルが上がらない。町で人的配置をしても平均学力が上がらない状況については、問題視する声が議会でもある。

平井委員 : 学力でいえば上げようと思ったらできるが、自分らしく色濃く生きていくことができる子供を育てたい。

(アンケートの内容について)

古川委員 : 大人用アンケートの間 12「中学校の部活動について、どのような方式がいいか」について示されたモデルパターンが分かりにくいのではないかと。選択項目 12 として、「分からない」を加えたらどうか。

また、間 11 の 2「学校の配置や位置」については、学校の場所について質問していると捉えるが、それでいいか。

武富委員 : この間 12 の選択肢については、大きい 3 区分（学校部活動、学校部活動＋地域

部活動、地域部活動)で示すようにすると分かりやすいのではないか。

合浦委員 : 小学生用アンケートの間2・間4に示された人数については、子どもでは判断が難しいのではないか。

これらの質問は間5にも関連してくるし、楽しいと感じる人数には個人差があるように思う。

與猶課長 : ご指摘の事項については、事務局にて検討する。

岡教育長 : 間2から間4に、選択肢「4わからない」を追加してはどうか。

また、ご指摘の大人用アンケートの間11の選択肢2については、一つは「学校の場所」とし、もう一つは、「学校の再編形態(小中一貫、小学校同士の統合、中学校同士の統合など)として、二つに分けるといいのではないか。

合浦委員 : 先ほどの小学生用アンケート間2・間4については、「わからない」を追加することで了解する。

高松委員長 : それでは、ここで採決に移る。委員の意見を踏まえて事務局で修正しアンケートを実施するというのでよろしいか。

委員全員 : 特段の意見なし。

高松委員長 : それでは、異議なしということでアンケート実施を進めていく。

これで今後の検討課題と対応について承認いただいた。

(アンケートの対象者について)

與猶課長 : アンケート対象者は、町民・区長(55人)・民生児童委員(27人)でよろしいか。

岡教育長 : できるだけ多くの町民の意見を聞きたい。

赤木委員 : 小学校・中学校・保育園の保護者はだぶるのではないか。

與猶課長 : 子供1人につき1アンケートの権利がある。

坂口久信委員 : 全戸にアンケート調査を実施してもいいのではないか。

岡委員 : アンケート用紙はどのように配布するのか。

與猶課長 : 小学校・中学校・保育園については、学校・園にお願いしたい。

巨瀬委員 : アンケート配布は全戸がいいのではないか。また、0歳児の親は対象にならないのか(対象にしたほうがいい)。

與猶課長 : 全戸配布の調査もあるが、全戸配布は回収率が低くなると聞いている。

古川委員 : 過去の太良町での経験が参考になるため、過去に町で過ごした子供たち、今の高校生の意見を聞いてはどうだろうか。

與猶課長 : 小学校・中学校・保育園に加えて、調査対象を高校生と乳幼児の保護者にも実施する方向で考えたい。

岡委員 : 小中の校長は3名が役職定年ということもあることから、アンケート結果が出たら、その方向性まで出してもらおうと助かる。

岡教育長 : アンケート結果の分析はできると考える。

6. その他

大岡委員 : 今年度は予算がないということでしたが、参考になる地区の視察・見学を実施すべきではないか。

與猶課長 : 可能であれば町のマイクロバスを使うなど工夫して、参考になる市町の視察・
見学ができるよう検討したい。
なお、次回委員会を1月中に開催できればと考える。

7. 次回開催日 令和7年1月17日(金)14:00～ に決定

終了 16時10分